

平成 30 年 9 月 7 日現在

機関番号：16101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2016

課題番号：23590743

研究課題名(和文) 徳島県における小・中学生を対象とした防煙教育プログラムの有効性に関する縦断的検証

研究課題名(英文) Influencing factors in smoking prevention education among elementary and junior high school students in Tokushima Prefecture

研究代表者

奥田 紀久子 (OKUDA, Kikuko)

徳島大学・大学院医歯薬学研究部(医学系)・教授

研究者番号：60331857

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、総数6347例の質問紙調査票が回収でき、喫煙防止教育介入前後の比較を行うことができた。統計解析により、以下のことが明らかとなった。今回実施した防煙教育プログラムによる介入後、小・中学生の喫煙に対する知識、意識、態度は有意に望ましいものに変化した。しかしその変化の程度には、性、学年、家族の喫煙状況、家庭でのたばこに関する会話の有無等が影響を及ぼしていた。将来、たばこを吸わない強固な意志は、だれかからたばこをすすめられても断れる姿勢と関連していた。以上のことから、本プログラムは、小・中学生を対象とした喫煙防止教育として有効であったといえる。

研究成果の概要(英文)：6,347 samples were collected for this research. It was possible to compare their responses before and after education intervention. As a result of statistical analysis, the following were clarified.

The students' knowledge, consciousness, and attitudes toward to smoking showed positive change due to this smoking prevention education program. However, the degree of change was affected by gender, grade, family smoking status and the presence or absence of conversations about smoking and some other factors. Furthermore, their strong intention to never smoke in the future was related to their attitude toward refusing when others pressured them to smoke.

In conclusion, this smoking prevention program is considered to be of value for elementary and junior high school students.

研究分野：学校保健学

キーワード：喫煙防止教育 小学生 中学生 防煙教育

1. 研究開始当初の背景

わが国の喫煙率は減少傾向にあるとはいえ、成人全体で20%前後で、5人に1人は習慣的な喫煙者である。また、男性、女性共に年齢区分別では、30歳代、40歳代の喫煙率が未だ高く、労働や子育て世代への健康被害が懸念される。

一方で、喫煙防止教育は保健学習の一環として小学生から導入されている。これらの学習の効果は、中学生での喫煙率の低下などが効果としてすでに証明されている。

近年のタスポの導入や、たばこの販売価格の上昇の効果も相まって、小・中・高校生の喫煙率が激減している。この傾向を維持し、成人したのちに決してたばこを吸わない強固な意志と、他人から進められても断る勇気やスキル、行動力を、早期に養うことが重要である。

本研究は、たばこに関する知識のみでなく、自分が一生すわない生活の実現と、受動喫煙による健康被害を受けないための喫煙防止プログラムの開発を長期的な課題としている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、喫煙防止プログラムによる防煙に関する意識や知識及び態度の変化を明らかにすること、小・中学生の防煙に関する意識や知識及び態度の実態を明らかにすること、小・中学生の家庭における防煙教育の実態を明らかにすること、の3点である。

3. 研究の方法

(1) 調査

教育委員会を通じて、県医師会に喫煙防止教育の依頼があった小・中学生に対し、家庭の喫煙環境、たばこに関する知識、成人した際の喫煙の意志や態度等に関する無記名自記式アンケート調査を実施。学校長の承認を得たのち、該当学級の担任より、アンケート用紙を配布、回収した。調査の回答と対比させるために、ID番号を記入させた。

(2) 喫煙防止教育介入

県医師会の防煙に関するトレーニングを受けた職員が、各学校に出向いて、喫煙防止教育を実施した。教育内容は、たばこに関する知識、健康被害について、受動喫煙について、断り方のロールプレイを含む。1回の教育は小学生45分、中学生50分とした。

(3) 調査

喫煙防止教育介入後、調査の内容から家族の喫煙環境を除外したほぼ同じ内容のアンケート調査を実施した。

(4) 解析方法

回答内容を数値化してコンピューターに入力し、調査ごとに基本統計量を求めた。学年、性別、家族の喫煙環境、喫煙に関する家族との会話の有無と内容、喫煙に対する意識、

意思、態度の実態について概観した。また、性及び学年による差の検定を行った。

次に、調査及び調査の内容について、対応のあるt検定を実施し、喫煙防止教育前後の変化をみた。得点化した項目は、喫煙防止教育前後の差を算出し、差について、家族の喫煙状況や家庭での会話と、喫煙に対する意志や態度との関連について分析した。

4. 研究成果

本研究計画による取り組みにより、以下の成果が得られた。

回収できたサンプル数は総数6,347(95.3%)例であった。

(1) 対象者の属性

回答者のうち男子は49.6%、女子が50.4%、小学生が64.6%、中学生が35.4%であった。学年の内訳は、小学校4年生が13.0%、5年生が19.7%、6年生が67.3%、中学校1年生が68.0%、2年生が24.1%、3年生が7.8%であった。

(2) 対象者の喫煙経験

今までにたばこを吸ったことがあると回答したのは、中学生の2.3%で、そのうち60%は、家族のだれかが喫煙していた。また、小学生では2.3%が吸ったことがあると答え、そのうち80%が家族が喫煙していた。対象者のうち、喫煙経験のある者は少数であったが、特に小学生では、家族の誰かが喫煙していることで、たばこを吸いやすい環境が形成されることが示唆された。

(3) 家族の喫煙状況

調査対象の小・中学生の55.7%が、家族に喫煙者があり、家庭でたばこを吸っていることがわかった。小学生と中学生の間に有意な差はなく、父親が40.4%、母親が14.5%、祖父が15.6%、祖母が4.5%、きょうだいが1.8%であった。

家庭でたばこに関する会話をしたことがあったのは、58.0%で、その内、61.0%がたばこの害について、58.2%がたばこをやめることについて、38.3%が受動喫煙の害について、31.7%がお金についての会話であった。

(4) たばこに関する知識の実態

たばこが体に良くない、病気になりやすい、がんになりやすいことについては、喫煙防止教育以前でも約9割の児童生徒がそう思うと答えていた。最も低かったのが受動喫煙の害についてで、正解は約7割にとどまっていた。

喫煙について、大人になっても吸わない、すすめられても断る、副流煙を吸いたくない、等は約6割から7割の児童生徒が「絶対」と回答したが、たばこを吸うことについて、「かっこ悪い」と答えたのは約半数にとどまった。家族の喫煙については約9割が「やめてほしい」と回答していた。

(5) 喫煙防止教育の効果について

喫煙防止教育介入によって、たばこに関する知識、喫煙に対する意識、将来たばこを吸わないという強い意志等、全ての項目につい

て、望ましい変化がみられた。しかし、家族に喫煙者がいる者、小学生よりは中学生、女子よりは男子の方が、たばこについてやや寛容な姿勢を示していた。

(6) 家庭の喫煙環境が喫煙防止教育に及ぼす影響

対象者を、喫煙防止教育の前後で望ましい変化が得られた者(良好変化あり群)、望ましい変化が得られなかった者(変化なし群)、始めから喫煙に対して望ましい意識を有していた者(良好継続群)の3群に分類した。良好継続群が58.8%で最も多く、次いで変化なし群が24.9%、良好変化あり群は16.3%であった。良好継続群は両親ともに非喫煙者の方が、両親のどちらかが喫煙している者よりも有意に割合が高かった。また、変化なし群は、その逆で、両親のどちらかが喫煙している方が割合が高かった。

(7) 喫煙防止教育の家族への波及効果

高校生を対象として夏休み前に喫煙防止教育を実施し、その前後及び、8か月後に同様の調査を行った。女子生徒は、たばこに関する正しい知識と望ましい態度を継続していたが、男子生徒では喫煙防止教育の効果の定着は8か月後にはみられなかった。しかし、家族の喫煙率が有意に低下しており、喫煙防止教育を子どもが受けることによって、家族が禁煙を意識したり、禁煙に成功する可能性が示唆された。

(8) 母親の喫煙が小学生に及ぼす影響

小学生への喫煙防止教育の効果において、母親の喫煙が大きく影響することが明らかとなった。特に女子児童においては、母親が喫煙している場合、そうでない児童に比べ、たばこをすすめられた時にきっぱりと断る意思が有意に低かった。男子児童には有意な差を認めなかったことから、小学生の女子児童は母親が喫煙することで、将来喫煙者となる危険性が高いことが示唆された。

(9) たばこを吸わない意思とすすめられても断る意思

対象の小・中学生ともに、おとなになってもたばこを吸わない意思とすすめられても断る意思には有意な正の相関があった。喫煙のきっかけは興味や関心に加え、喫煙者からすすめられ、断れない環境にある。たばこを絶対に吸わないという強い意思と、すすめられてもきっぱり断る態度の育成が、今後の喫煙防止教育において重要であることが示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7 件)

Kikuko Okuda, Hiroki Okada, Tetsuya Tanioka, Kyoko Osaka, Family Environment Factors to Impact on the Effect of the Smoking Prevention Educational Program for

Elementary and Junior High School Students, Health, 査読有, No. 10, 75-89, 2018

廣原紀恵、棟方百熊、奥田紀久子、郷木義子、小学生における家族の喫煙習慣に対する考え方と将来の喫煙行動の予測との関連、茨城大学教育学部紀要、査読有、63号、2014、194-204

松岡麻衣子、加藤千代子、中窪萌子、奥田紀久子、医療系学部新入生の喫煙に対する意識と知識の実態、教育保健研究、査読有 18号、2014、131-138

久保沙織、大西香織、奥田紀久子、母親の喫煙行動が小・中学生の喫煙に対する意識に及ぼす影響、小児保健とくしま、査読無、20号、2012、6-11

奥田紀久子、中瀬勝則、近藤和也、谷洋江、岩佐幸恵、高橋裕子、谷岡哲也、高校生を対象とした喫煙防止教育の効果及び家族への波及効果、四国医学雑誌、査読有、68巻、34号、2012、131-138

棟方百熊、宮崎久美子、梶原京子、奥田紀久子、喫煙に関する高校生の認識と態度、査読有、教育保健研究、17号、2012、63-37

奥田紀久子、岩佐幸恵、谷洋江、藤井智恵子、宮崎久美子、梶原京子、A県における防煙及び喫煙防止教育の実態と課題、教育保健研究、査読有、17号、2012、69-74

[学会発表](計 11 件)

奥田紀久子、大坂京子、田中祐子、中瀬勝則、中窪萌子、加藤千代子、喫煙防止教育による中学生の健康観の変化の分析、第63回四国公衆衛生研究発表会、2018年、1月26日、高知市

奥田紀久子、大阪京子、堤理恵、中窪萌子、加藤千代子、松岡麻衣子、郷木義子、棟方百熊、廣原紀恵、喫煙防止教育における児童生徒の知識・意識・態度の変化、第63回日本学校保健学会学術大会、2016年、11月19日、つくば市

奥田紀久子、棟方百熊、中窪萌子、加藤千代子、郷木義子、中学生における喫煙防止教育の効果と家族の喫煙行動との関連、第62回日本学校保健学会学術大会、2015年、11月28日、岡山市

奥田紀久子、松下恭子、藤井智恵子、小倉和也、郷木義子、大学入学時の防煙教育の効果と影響要因に関する一考察、第73回日本公衆衛生学会総会、2015年、11月6日、宇都宮市

Kikuko Okuda, Yasuko Matsushita, Chieko Fujii and Kyoko Osaka : Effect on smoking Prevention Education for Junior High Students When Influenced by Smoking Family Members, The 6th International Conference on Community Health Nursing research, 2015, 22th, Aug, Seoul.

奥田紀久子、郷木義子、棟方百熊、廣原紀恵、高校生における喫煙防止教育内容への関心の実態と背景、第61回日本学校保健学会

学術大会、2014年、11月15日、金沢市

加藤千代子、中窪萌子、奥田紀久子、喫煙防止教育が大学生の意識と喫煙行動に及ぼす影響、第61回日本学校保健学会学術大会、2014年、11月15日、金沢市

奥田紀久子、片岡三佳、藤井智恵子、松下恭子、岡久玲子、宮崎久美子、千葉進一、多田敏子、梶原京子、小・中学生が喫煙防止教育前にたばこに対して抱いている思い、第17回日本地域看護学会学術集会、2014年、8月3日、徳島市

Kikuko Okuda, Gohgi Yoshiko, Chieko Fujii, Yukie Iwasa, Hiroe Tani, Kazuya Kondo and Tetsuya Tanioka : Relationship between the Parent's Smoking Habit and the Knowledge/Consciousness after Smoke Prevention Education Targeted at Elementary School Students, Proceedings of the Sixth International Conference on Information (Info13), 8th, May, 2013, Kyoto

奥田紀久子、青木圭子、中村真由美、藤井智恵子、中瀬勝則、小学生における喫煙防止教育の成果に関する一考察、第7回日本禁煙科学学会 in 盛岡、2012年、11月18日、盛岡市

奥田紀久子、谷洋江、廣原紀恵、宮崎久美子、郷木義子、梶原京子、家族の喫煙が小中学生のたばこに関する知識および意識に及ぼす影響、第31回日本思春期学会総会・学術集会、2012年、9月2日、軽井沢町

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1) 研究代表者

奥田 紀久子 (OKUDA, Kikuko)
徳島大学・大学院医歯薬学研究部
教授
研究者番号：60331857

(2) 研究分担者
高橋 裕子 (TAKAHASHI, Yuko)
奈良女子大学・保健管理センター
教授
研究者番号：00346305

(3) 連携研究者
近藤 和也 (KONDO, Kazuya)
徳島大学・大学院医歯薬学研究部
教授
研究者番号：10263815

(4) 研究協力者
棟方 百熊 (MUNAKATA, Hokuma)
岡山大学・大学院教育学研究科
准教授
研究者番号：30284344

(4) 研究協力者
廣原 紀恵 (HIROHARA, Toshie)
茨城大学・教育学部
教授
研究者番号：70516004

(4) 研究協力者
郷木 義子 (GOHGI, Yoshiko)
就実大学・教育学部
教授
研究者番号：90113365

(4) 研究協力者
藤井 智恵子 (FUJII, Chieko)
近代姫路大学・看護学部
教授
研究者番号：30438965